

当センターにおける心電図検査実施状況

○東 佑輔 田中 将太 開田 郁代 鹿島 孝子
兵庫県立ひょうごこころの医療センター 薬剤部

抄録本文

【目的】

当センターは精神科単科病院であり、統合失調症患者が多数入院している。統合失調症患者の心血管疾患による死亡は、自殺に次いで多いと言われている。

また、統合失調症に対する治療薬である抗精神病薬は副作用としてQT延長を起こす可能性があり、「向精神病薬の副作用モニタリング・対応マニュアル」には用量変更時に心電図を行うことを推奨している。そこで当センターにおける抗精神病薬服用患者に対する心電図検査実施状況を調査した。

【方法】

2018年4月と5月に退院した抗精神病薬を服用している統合失調症患者に対し心電図検査が実施されているかレトロスペクティブに電子カルテにて調査した。更に入院時と退院時のクロルプロマジン換算値（以下CP値）も調査した。また、入院時に電子カルテが導入されていない患者に関しては除外した。

【結果】

調査期間中に退院した抗精神病薬服用統合失調症患者は42人であり、そのうち39人は心電図検査が実施されていた。心電図検査が実施された39人のうち、21人は入院時のCP値に比べ、退院時のCP値が高値を示した。退院時CP値がより高値を示した21人のうち17人は入院直後のみ心電図検査を実施し、その後退院するまで心電図検査は実施されていなかった。

【考察】

本調査で、入院時のCP値に比べ退院時のCP値が高い患者の多くは、用量変更後の心電図検査が実施されていない状況であった。

現在当センターでの検査ガイドラインでは、入院患者は3ヶ月毎に、外来患者は1年毎にとされている。今後は医師との協議により当センターガイドラインを見直し、それを基に心電図検査を実施し、安全な薬物治療を進めていく必要がある。